

EU 支部長:松原真実子 MATSUBARA Mamiko 国際文化研究専攻修了 修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』

この号の内容

1 イタリア エアビの「セルフチェックイン」禁止に、テロ対策で

2 EU 支部だより

・公共の秩序と安全

・短期の賃貸が増加



・プレゼピオ

・ラ・ベファーナ



イタリア エアビの「セルフチェックイン」禁止に、テロ対策で CNN.co.jp

(CNN) 米民泊仲介大手Airbnb(エアビーアンドビー)の利用者がイタリアに遅れて到着して、キーボックスを開けて自分でチェックインする。現在は日常的にみられる光景だが、テロ対策の新法を受けて、イタリアでは今後、こうしたセルフチェックインが禁止となる。

イタリア内務省によれば、人気の訪問先が観光客であふれかえることを懸念する人々からは今回の動きを歓迎する声があがっている。キーボックスやキーパッドを確実に除去するため係官が派遣されるという。

イタリアでは、入居期間に関係なく、すべての利用者は地元の警察署で登録を行う必要があるが、近年では、不動産の管理者が写真や携帯電話の画像をメッセージサービスに転送して対応していた。

今後は利用者本人が実際にチェックインしなければならない。

出回っている新法の通達によれば、新しい規則について、危険な人物や犯罪組織やテロ組織に関係ある人物の宿泊の可能性に関連して、公共の秩序と安全に対する危険を防止することを目的とした厳格な措置が必要だと説明している。

こうした措置はイタリアで来年以降、大きなイベントの開催を控えるなかで実施された。2025年はカトリック教徒の「聖年」にあたるため、ローマには多くの観光客が訪れるとみられている。26年にはミラノ・コルティナダンペッツォ冬季五輪が開催される。

通達では、今回の禁止令の施行は、イタリアで予定されている政治的、文化的、宗教的な行事に関連してイタリア全土で短期の賃貸が増加していることや、推計3000万~3500万人の観光客がイタリアを訪問するとみられる聖年を考慮して決定された。

地元自治体からは、今回の動きを歓迎する声が出ている。

AirbnbはCNNに宛てた声明で、治安に真剣に取り組んでおり、公共空間に設置された違法なキーボックスを取り締まる公式の取り組みを支持していると述べた。セルフチェックインについては、ホストとゲストの双方にとって、到着を柔軟に管理できる便利な選択肢だとも擁護した。

EU 支部だより —クリスマス—

イタリアのクリスマスは、魅力的な経験です。以下に、4つの特徴をご紹介します。

プレゼピオ (Nativity Scene): イタリアのクリスマスは、まずプレゼピオ (Nativity Scene) から始まります。このベツレヘムの情景を再現した飾りは、各家庭や教会、公共の場に設置され、非常に精巧に作られています。プレゼピオはしばしば手作りで、家族全員が一緒になって作り上げることが多いです。イタリアの中でも特にナポリが有名で、歴史あるプレゼピオ職人の技が光ります。

クリスマスマーケット: クリスマスマーケットは、イタリア全土で冬の風物詩となっています。特にボルツァーノ、ミラノ、トリノなどでは大規模なマーケットが開催され、地元の工芸品、食べ物、クリスマスの飾りが並びます。訪れる人々は温かいホットワインを片手に、手作りのクリスマスオーナメントやお菓子を楽しみます。特にトレンティーノ=アルト=アディジェ州のマーケットはドイツ風で、クリスマスの雰囲気存分に味わえます。

特別な料理: クリスマスイブには「ラ・ヴィジリア (La Vigilia)」として知られる七種類の魚料理が並びます。これには、イカやエビ、タラなどのシーフード料理が含まれ、家族全員で豪華な海の幸を楽しみます。クリスマスデーには「パネトーネ (Panettone)」や「パンドーロ (Pandoro)」といった伝統的なデザートが登場し、これらのケーキはフルーツやクリームで飾られます。また、クリスマスディナーでは、トルテッリーニのスープやローストビーフが定番料理です。

ラ・ベファーナ (La Befana): 1月6日にはエピファニー(公現祭)が祝われ、伝説の魔女ラ・ベファーナが登場します。ベファーナは、良い子にはお菓子を、悪い子には炭を煙突を通じて届けると言われています。この日はクリスマスの最後を飾る重要な行事であり、イタリア全土でベファーナにちなんだイベントやパレードが行われます。特にベファーナに扮した人物が街中を歩く姿は、子供たちにとって大きな楽しみです。家族で過ごすイタリアのクリスマス。聖夜は神秘的ですよ。(松原)